

アジアの友

The Asia-no Tomo

6-7

JUNE-JULY

2018

理事長就任のご挨拶 白石勝己

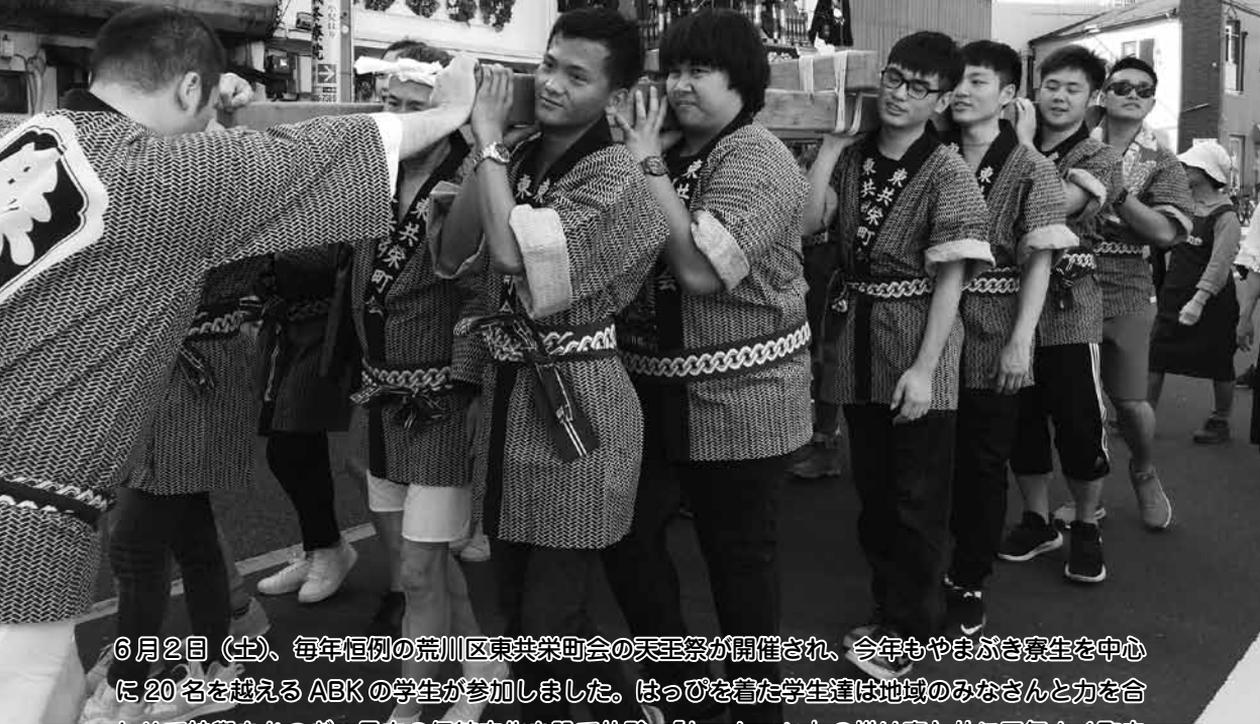
<セミナー> インド・南アジア諸国における労働の現場で考えたこと

<学校法人ABK学館 創立5周年記念行事>

海外協定大学日本語教育事情セミナー



留学生が神輿を体験！



6月2日(土)、毎年恒例の荒川区東共栄町会の天王祭が開催され、今年もやまがき寮生を中心に20名を超えるABKの学生が参加しました。はっぴを着た学生達は地域のみなさんと力を合わせて神輿をかつぎ、日本の伝統文化を肌で体験。「わっしょい」の掛け声と共に元気よく町内をまわり地域行事を盛り上げました。



アジアの友

2018年6・7月号 第533号

目次

2	理事長就任のご挨拶 白石勝己
	2018ABK セミナー
4	インド・南アジア諸国における労働の現場で考えたこと ～南アジアの労働現場で、働く人たちの安全と健康を向上する～ 講師 川上 剛 ILO 南アジアディーセントワークチーム 労働安全衛生専門家
	学校法人 ABK 学館 創立5周年記念行事 海外協定大学日本語教育事情セミナー
19	「ご挨拶」 ABK 学館日本語学校校長 佃 吉一
21	「モンゴルの日本語教育事情」 モンゴル文化教育大学 日本語学科 日本語教師 プレンチ メグ
26	「バングラデシュの日本語教育事情」 ダッカ大学 現代言語研究所 (IML) 日本語文化学科 准教授 アラム モハメッド アンサルル
	ご 報 告
33	新星学寮建替え募金 (2018年6月30日現在)
34	新しい新星学寮が完成しました!
35	知友会通信
36	MEMBERS

平成30年7月豪雨災害により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

<表紙> 荒川区東共栄会の天王祭にて
神輿を担ぐ ABK の学生たち



理事長就任のご挨拶

公益財団法人 アジア学生文化協会
理事長 白石 勝己

本年6月に小木曾友前理事長の後任として、公益財団法人アジア学生文化協会の理事長の責を担うこととなりました。引き続き、変わらぬご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

本協会は文京区本郷の新星学寮の土地・建物を基本財産として1957年設立されました。新星学寮の歴史は戦前の至軒寮まで遡ることが出来ます。本協会の設立趣意書には、これら学寮の伝統を受け継ぎ、以下二点が本協会の基本的態度として謳われています。

「人間的和合」: 宗教、思想、文化、社会体制の相違を尊重しつつ、共同生活によって相互の理解を深め、全人間的和合をはかること

「互恵協力」: 相互に協力して学び合い将来に及ぶ科学、技術、文化、経済の交流の基礎を築くこと

この本協会設立の理念、指針は60年を経て今なお、その意義を失うことなく、むしろ「国際化」が劇的に進展し価値観が多様化する現代において、ますます重要になっていると言えると思います。これらの理念を基礎としつつ、本協会は2014年に公益財団法人として再出発しました。

その中心的事業の一つとして、留学生と日本人学生の自主的な共同生活を通じ

た人格形成、友情の醸成の場としての「共同学寮」の運営、および新規来日する留学生が安心、安定して勉学生活を送れるための「留学生寮」の運営を展開して参りました。本年6月には、多くの関係の方々のご協力を得て、新星学寮の建て替えを行い、自治活動を核とする次世代を担う人材育成の基盤を再構築することが出来ました。ご支援を頂いた皆様にはこころより感謝申し上げます。

もう一方の中心的事業である日本語教育事業は、同じく2014年に新規設立した学校法人に全面的に移管することで、今後さらに社会的に必要とされる日本語教育の多様化に対応し、アジアの大学との連携も図りつつ事業の強化を図って行く計画です。また、本協会で長年蓄積された留学生受入れの知見を生かし、インターネットによる日本留学情報の提供や、大学等の留学生受け入れに対する支援事業、地域日本人を対象としたアジア各国語講座等も展開しており、これらの事業はさらに拡大しつつあります。

今日、我が国とアジアをはじめ諸外国との関係はますます緊密化し、人の交流も盛んになっていますが、そこで生ずる問題の密度もさらに濃くなることが想定されます。このような時代であるからこそ、本協会は微力ながらも、自らの事業の重要性を自覚しつつ、人と人の絆を繋げ、国際間の困難な問題にも立ち向かう力量を持った人材を育てる場を作って行きたいと考えています。

現在本協会においては、アジア文化会館の全面的な建替えも視野に入れつつ、これからのアジアの時代を見据えた長期的な構想が求められています。もとより、本協会の事業は内外の広範な皆様のご協力を得て実現されてきたものであり、今後とも、皆様の熱意あるご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りたく、衷心よりお願い申し上げます。

2018 ABKセミナー

インド・南アジア諸国における労働の現場で考えたこと

—南アジアの労働現場で、働く人たちの安全と健康を向上する—

講師 川上 剛

ILO南アジアディーセントワークチーム 労働安全衛生専門家 ニューデリー在住

ABKでは去る6月22日(金)、元ABK在館生で、ILO(国際労働機関)労働安全衛生専門家の川上剛さんによるセミナー「インド・南アジア諸国における労働の現場で考えたこと」を開催しました。当日は、普段私たちが知ることのない南アジア各国の労働現場の現状とその改善に取り組むILOの活動について、川上さんからわかりやすくご説明いただき、後半には参加した皆様からたくさんの質問が出される活気のあるセミナーとなりました。ここでは当日のお話の主要な部分を、川上さんご協力のもとご紹介させていただきます。

私は昨年、6年住んだスイス・ジュネーブのILO本部から、インド・ニューデリーの南アジアディーセントワーク*チームに移動させてもらい、労働安全衛生専門家として仕事を続けています。ジュネーブの前はタイ・バンコクで11年間東南アジアを担当して同じ仕事をしておりました。労働安全衛生というのは産業安全保健とも言いますが、労働の現場で労働災害や職業病を予防し、安全で健康的で人間的な労働環境を作るのを応援する仕事です。南アジア担当ということで、アフガニスタン、バングラデシュ、インド、ネパール、モルジブ、パキスタン、スリランカの7か国を担当しています。家

族といっしょにニューデリーに住んでいますが、これらの国からの技術アドバイスの要請でしょっちゅう出張しています。まだ、南アジアチームに移動して1年足らずなので私の経験は限られていますが、本日はこれまでに関わった労働現場の活動についてお話ししたいと思います。

ILO(国際労働機関)の仕事

私が働いているILO(International Labour Organization; 国際労働機関)は、1919年に設立された社会労働政策を担当する国連の専門機関で国連の機関では一番古いです。1919

* ディーセントワーク(Decent work)とは、権利が保障され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事を意味します。ILOでは世界中の各地域ごとにディーセントワークチームを設置して、ディーセントワークの実現に努めています。例えば、南アジアディーセントワークチームには、川上さんが専門にしている労働安全衛生の他に、国際労働基準、児童労働撲滅、雇用政策、職業訓練、企業開発、賃金、ジェンダー、社会保障、移民労働、労働行政・労使対話、使用者活動、労働者活動、労働統計の専門家がいる、南アジア各国の政労使のニーズに対応してプロジェクトや技術支援を実施しています。

年というのがどういう年だったかという
と、1918年が第一次世界大戦が終
わった年です。ヨーロッパ中が荒廃し
てベルサイユ平和条約が結ばれて、も
う戦争は嫌だという気持ちが世界中に
あったと思うんです。そういう時でし
たからILOという組織を作ることで、
世界中の働く人たちの労働条件を改善
して国や地域間の格差や貧困を無くそ
うという目的でできたんです。

ILOの大事な特長は政労使三者構成
と言って、政府と労働者と使用者の代
表が同じ立場で参加しているわけです
ね。ですからILOの総会というのは
真ん中に政府の代表が座って、議長か
ら見て右側に各国の使用者代表が
いて、左には各国の経営者代表が
いるんですね。だから何か決める投票
の際には日本としては3票持っている
わけですが、日本人3人が集まって
日本の国益として同じ3票を入れる
ということではないんです。どうする
かということ、労働者側の人は世界
中から来た労働者代表と相談し、
使用者側の人は世界中から来た使
用者代表と相談して決めて投票する
わけです。特に政府に批判的な立場
を取ることもある労働組合が、同じ
立場で投票権を持っているというのが
国連の中でもユニークな機関です。

ILO憲章

ILOは第一次世界大戦が終わった後で、戦
争が起ってしまった反省からできた機関だと



川上 剛 (かわかみつよし)

1983年より1988年までABK在館。1984年東京医科歯科大学医学部卒業医師免許取得、1988年東京医科歯科大学医学部大学院卒業(公衆衛生学専攻、医学博士)。1988年労働省産業医学総合研究所勤務を経て、1991年より財団法人労働科学研究所勤務。日本とアジア各国で製造業・サービス業・農業等さまざまな職場における労働安全衛生改善研究プロジェクトに従事。2000年から2011年までILO(国際労働機関)アジア太平洋総局(バンコク)勤務、その後2017年までILO本部(ジュネーブ)、2017年7月よりILO南アジアデーセントワークチーム(ニューデリー)に所属し、各国の中小企業、多国籍企業、インフォーマル経済職場や農業における労働安全衛生改善プログラム作成とその実践活動に従事。また、各国におけるILO国際労働基準の普及および労働安全衛生政策・法制度づくりに協力。

言いましたが、ILO憲章の冒頭部分にすごく
大事なことが書いてあります。引用すると、
「世界の永続する平和は社会正義を基礎とし
てのみ確立することが出来る。世界の平和お
よび協調を危うくするほどの大きな社会不安
を起こす不正、困苦および窮乏を多数の人々
にもたらすような労働条件がなお存在してお
り、これらの労働条件を改善することが急務

(写真1)



てみんなで一緒にやっけて行こうという
ことだと思います。

インドの中小企業における 取り組み

それではまずインドの中小企業の
の現場改善の活動からお話ししま
す。どんな取り組みをするかという
と、ILOは参加型トレーニングの手法
を用います。一番大事なのは経営者
と労働者が一緒に集って協力して率直

となっている。いずれかの国が人間的な労働
条件を採用しないことは、自国における労働
条件の改善を希望する他の国の障害となる。」

すごく深いことが書いてあるなと思いま
す。これを読んで私が思うのは世界の平和
という、この間のアメリカのトランプ大
統領と金正恩北朝鮮労働党委員長の会談の
ように、当事国のえらい人たちが話し合
って決めて解決する部分もありますが、実
はその基は私たちの毎日の生活や労働の中
にあるということです。つまりみんなが適切
な労働条件で継続して仕事をしてい

(写真2)

く中で、貧困・格差やいろいろな社会
不安がなくなり、どこの国が悪い
とか誰が悪いという話もなくなって
平和の基礎が築かれる。そのためには
社会制度の整備と人間的な労働条件
を整えることが大事だと。どこの
国で非人間的な労働条件で働か
されている労働者がいるとそれがほか
の国が労働条件を良くする際の障
害にもなるので、国際的に協力しあ

に話し合うことですね(写真1)。自分たち
の職場の安全衛生上の問題は何かと。その
ために、後述の写真7で示したようなアク
ションチェックリストを使用します。これ
は改善ポイントが実際の改善事例イラスト
と共に示されているので、予備知識がなく
ても経営者と労働者が自分たちで工場の中
などを歩き回って、ここは危険だとか、こ
こはもっとこうした方が良いとか見つけて
行くことができます。その時には、安全、
健康と生産性などを一緒に組み合わせ取



り組んで行きます。

(写真2)は南インドのチェンナイの自動車部品を作る小企業です。ILOのプロジェクトに参加して安全衛生の改善を進めました。電線が裸で危ないから配電盤を作ったとか、床に座って仕事をしていたのを全員に作業机を支給したとか、機械の危ない部分にカバーをつけたとか、いろいろな化学物質が工場の床に置いてあったのを置く場所を決め鍵をかけたとかですね。

こうしたことは私たち専門家が直しなさいとか言わないで、現場の経営者と労働者に他のいろんな企業の改善事例の写真を見ていただいて、自分たちで工場を回って気が付いてやっていく。そうした参加型・自主対応型の支援が継続性のためにとっても大事なんですね。専門家はしょっちゅう来れませんから。今こういうやり方を始めてインドのいろいろな草の根の職場に到達しようとしている所です。

パキスタン、シアルコート市の スポーツ用品製造業における取り組み

(写真3)はパキスタンのシアルコート市のサッカーボール工場です。私も行くまで知らなかったのですが、シアルコートは品質の良いサッカーボールとかスポーツウェアなどを多国籍企業から注文を受けて作っています。また手術用のメスやハサミなどの外科用器具も作っており、すごく優れた技術を持っています。その上で地元企業は

(写真3)



労働者の安全衛生・労働条件を改善してさらに質のよい製品を生産したいということで、ILOも現地の経営者・労働者を応援しています。そこで現在ILOのプロジェクト「シアルコート市のスポーツ用品産業における持続可能性と責任あるビジネスの推進」が進んでいます。かつて1990年代には児童労働があったところでしたが現在はなくなっています。当時はILOの調査レポートが出て、当地のサッカーボール製造に児童労働があるということが問題になって輸出が難しくなったそうです。ですから私がシアルコートに行った時ILOという名前は悪夢だと言っている経営者の方もいました。

日本でも最近ありますが、欧米では途上国から輸入した製品が労働者が劣悪な労働条件で働かされて作ったかどうかを消費者はよく見ている、そういうことがわかると買わなくなるわけです。これは企業にとって大事な問題です。労働だけじゃなくて環境ももちろんそうです。環境を汚して作ったものは買わないとか。また当然人権にも配慮しています。

(写真4)



現在のグローバル市場で物売るにはそういう配慮が必要です。

それに関連してILOには多国籍企業および社会政策に関するILOの三者宣言というのがあります。多国籍企業は各国の社会的な福祉の増進とか雇用機会創出とか人権の向上等に寄与出来る可能性を持っている。一方ですごく大きな経済力を持っているので、その経済力を利用して国の政策を惑わせたり労働者の利益と衝突をもたらす可能性、つまりどこかに進出した多国籍企業が労働組合を作らせないとか、不当に安い賃金で人を雇うとか、そういうことがあってはならないということをILOの三者宣言として作ってあります。その中に雇用開発とか、労働者に対する訓練、労使対話、職場の安全衛生などが入ってそれに準拠してやっているわけです。現在ではこれに賛同している多国籍企業はたくさんあります。

実際のプロジェクトの活動は、

シアルコートのスポーツ用品製造・輸出業組合のイニシアチブで実施されました。その若い会長さんが労働条件改善に熱心に取り組まれている。自分でも工場を持っていますが、他の工場の経営者の会員たちを集めてくれました。私からは「私はみなさんの会社を監督したり摘発するために来たんじゃないんです。私は医者でみなさんが健康で安全に働いて生産性も上がって、そして国際的に

輸出をしやすくするために労働条件の向上を一緒にやりましょうということでも来ました。」と話しました。それは大歓迎で、そういう活動をどこの会社もしたいわけです。

改善活動をどうやって進めるかということ、これは参加型で現場の労働者と使用者に協同でやってもらう。私が専門家としてあしなさいこうしなさいということはありません。欧米の発注先の多国籍企業では監査員を派遣して、ちゃんとトイレを付けなさいとか指導をして、工場はその通りに

(写真5)



(写真6)



作るようにしているようです。それはそれで悪くはないのですが、ILOは現場参加型で自主対応を尊重する方式で支援しますから、経営者と労働者が自分たちでアクションチェックリストを使って考えてもらうようにします。私の役割は(写真4)のように既にある地元改善事例を見せて、現場の経営者と労働者が一緒に話し合ってもらい改善点を出すのを側面から支援することです。

(写真5)は経営者と労働者がグループ討議をしているところですが、後ろをよく見ると日本の旗が付いていますね。日本政府もこのプロジェクトにお金を出しているんです。これは2020年の東京オリンピックと関係があるわけなんです。東京オリンピックに関わる労働者とか業者さんが搾取されてないとか環境に配慮しているとか、そういうことを東京オリンピックの準備でも掲げているそうです。これは前のロンドンオリンピックの時も同様だったそうです。ですからオリン

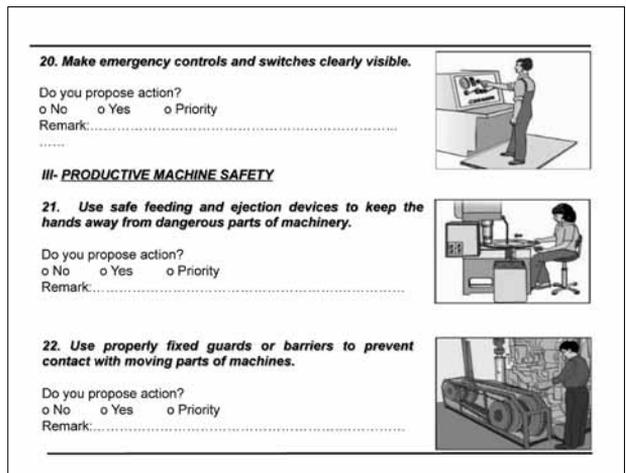
ピックで使われるいろんなスポーツ用品を作っている労働者の労働条件の改善を応援するというのは大事なことです。

強調したい点ですが、こうした現場で参加型・自主対応型の進め方の良い点は、(写真6)のように労働者、特に女性が参加して勇気を持っているような意見を言うことです。先ほどILOの仕事で労使の自主対応が大事だと言いましたが、

ILOでセミナーをやる時に必ずこうして労働者と経営者を一緒に呼ぶんですね。経営者と労働者が対等に参加して話し合えるという職場は必ずしも多いわけではないので、それが労使対話そして労働者が声を出す良い機会になっていくわけですね。それからできるだけ女性が男性と同じ数だけ参加するようにする。私もそういったことに気を使いながら活動をしているわけです。

実際の労働安全衛生トレーニングの進め方は簡単にできて実践的であることが大事

(写真7)



です。(写真7)はILOがよく使うアクションチェックリストの1ページですが、こうやったら良くなりますよというイラストがいっぱい描いてあります。たとえば一番下の例だったら、「機械の回転部分にガードやバリケードを作って安全を守ります」と。そして、「これは必要ですか？必要ではないですか？」とアクションを聞くんですね。これを持って経営者と労働者が自分の職場を歩き回って、ここにカバーはないからアクションは必要だなと思えばチェックを入れるわけです。そういった項目が30項目くらいあります。重量物の運搬、作業姿勢、化学物質対策とか機械とか電気の安全、それからチームワークと福利厚生施設とかもあって、これをやると現場の経営者と労働者がなんの前知識がなくてもすぐに自分たちで簡単なチェックが出来る。実際の現場で簡単にできるということが現場で実行する上で極めて大事ですね。

この進め方は職場トレーニング(workplace-based training)と言うんですけど、私たちの方から半日ずつ違った工場へ行って経営者と労働者に集まってもらってやるんです。ホテルとか外の会議場とかで行なうと遅れて来る人がいたり、会社から言われて来ただけということであまりやる気の無い人が来たり、終わった後職場に戻っても何も行動しない人が来たりする。また、労働者代表が仕事を抜けて参加するのは難しかったりする。その点、この職場トレーニングがいいのは、我々

の方が現場へ行くので、やる気のある人が参加しやすくなります。それにトレーニング自体は2～3時間でできますから、ちょっと仕事を抜けて現場の人が直接参加でき、女性の参加も進みやすく、準備も工場の会議室を借りるだけですから簡単です。小さな企業を対象にする場合には、近隣の工場同士でいくつかひとつのところに集まってもらって一緒にやることもあります。今回は4日間で計41企業187人の経営者・労働者が参加しました。こういうのをさらにパキスタンや他の国でも続けようとしています。

スリランカの紅茶プランテーションにおける取り組み

次にスリランカの話をしていきます。スリランカの紅茶プランテーションの労働安全衛生職場トレーニングです。先ほどのパキスタンのサッカーボールのプロジェクトとこのスリランカの紅茶のプロジェクトというのはILOの中では共通の目的の中で一緒なん

(写真8)



(写真9)



です。つまり両方とも輸出製品でありその国の経済上極めて大事な製品で、それを作っている労働者の健康や労働条件を改善して生産性や品質も同時に高めていこうという枠組みです。スリランカは島国で山が多く平地は暑いんですよ。お茶というのは涼しいところで作るの、標高のある丘陵地でしかも斜面に作られることが多いんです。その分、労働者の作業はきつい面があって、若い人が来なくなると聞きました。日本の3K職場と同じでしょうか。やはり作業者の高齢化が進んでいるわけです。

まず最初に、あるプランテーションで実際の作業を見せてもらいました。(写真8)のように摘んだお茶を集めるのに袋を背負っていますが、もうちょっと安定して作業しやすい籠にしたらと思いました。あとお茶の木と木の間の通路が草ぼうぼうになっている。聞いてみると以前はきれいにしていたそうですが、今、お茶も世界的な競争がすごく激しく、お茶作りの新興国が

もっと安く作るのだからこちらもコストダウンしなければならなくてこうなってしまったと言っていました。こうした中でどうやって改善するかということをお話し合うわけですね。

ここはイギリス植民地時代の100年以上前に作られたプランテーションで仕事と生活に必要な施設が内部に揃っています。労働者住宅も同じ敷地内にあり、(写真9)のように学校とか保育園もあります。

スリランカは仏教徒が多いですが、ヒンズー教とイスラム教の方もたくさんいてお寺やモスクがあります。茶畑に加えて摘みたてのお茶の葉を蒸したり発酵させて加工するお茶の工場も同じプランテーション内にあって製品を出荷していました。

作業の現場を見せてもらいながらまずすることは、現場にすでにある良い事例を集めることです。重いものを運ぶので台車を使っている人もいるし、農薬散布の際にはちゃんと保護具を使っている作業員もいるし、また茶葉の収穫には安定したより使いやすい籠を使っている例もあります。また負担の大きい腰曲げ姿勢はできるだけ避けるように、そういう意味ではお茶の木の高さなんかにも配慮しないとイケないんですね。そんなことをみんなで話すんです。スリランカですからシンハラ語とタミール語と英語でやるわけです。

いろんな農場や工場を見て良かったら写真を撮って、それを労働者や経営者に見て

(写真10)



もらってスリランカにはこんなに良い事例があるじゃないですかという話をします。そして、じゃあ自分たちの職場でどうするかを見て考えてもらうんですね。ここでも(写真7)のアクションチェックリストを使って、経営者と労働者の代表に工場の中や農場の中を自分たちで回ってもらっているんですね。(写真10)は工場の中です。(写真11)は実際のお茶畑で、労働者が茶摘みをしているのを見ながらチェックしています。この結果を基にグループワークをして改善提案を自分たちで話し合います。

経営者と労働者がどんなことを話したかということですが、まず工場の改善点では重量物運搬の際の台車を徹底して使いましょうとか、暗い場所があるから照明を改善しようとか、長時間立ち作業があるから改善しようとか、床が欠けているところがあるから改善しようとか、休憩場所を作ろうとか、機械ガードはあるけれど、がたついているからもっと

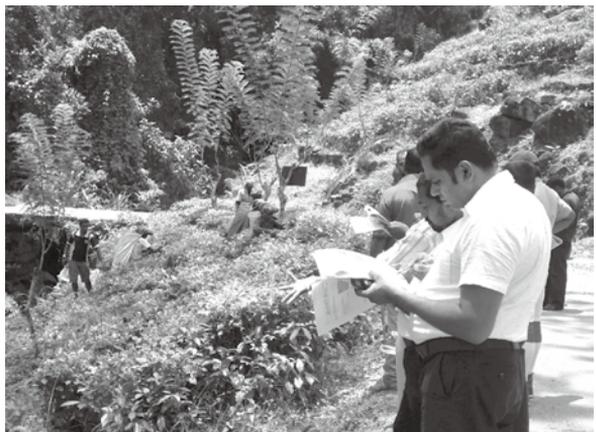
安全なのを作りましょうとか、そんな話ですね。

一方、農園の方の改善提案は、ちゃんとした籠を使いたい。あと一番大変なのは休憩所とトイレで、女性たちは朝6時から来て12時頃までトイレに行かず働いていて、そうしないと終わらないと言うんですね。だけど休憩しながらやったほうが能率は上がるし、疲労回復になるわけです。ただトイレが近くにないんです。30分歩いて

工場まで行けばありますけどそんなことはやってられませんから、この畑の近くにトイレとか休憩所をつくり、また休憩時間を確保しよう。とったお茶の葉っぱの計量所が遠いので、近くにあればそこで計って運べるからよいか。それと、保健サービスとしての健康相談とかですね。

このスリランカのプロジェクトもつい先月行ってきたばかりなのでこの後どうなったかまだ見てませんが、経営者も労働者もすごくやる気になってくださってうれし

(写真11)



かったです。実はここも私が最初に行った日は不安の目を向けられていたというか、工場の方から何をやるんだとか写真を撮らないでくれとかちょっと警戒されていたんですね。ただ経営者の方も自身の労働者の安全衛生は実践的な方法があれば改善したいし、輸出先での評価も気になりますから労働改善はやっていきたいわけです。話しをしていく中で理解していただけるとよい協力関係ができました。

ILOには国際労働基準というのがあって、その中で私たちが産業安全保健活動をする上でも重要な視点があります。そしていつもILOが強調しているのは労働者参加ですね。労働者の参加の機会が常に向上し確保されているように努力します。労働者参加は健康とか安全のシステムにおいて最重要であり、使用者は全ての面で労働者と協議すべきであると。国際労働基準としてこういうバックグラウンドがあるので、現場で労働者が参加した形でトレーニングやグループワークをやるのも、こういう国際労働基準に基づいてそれを意識しながらやっていっているんです。

ネパールの小規模建設現場での取り組み

(写真12)はネパールの建設現場です。二階建て建物などの小さい建設現場では労働者は裸足だったりサンダルだったりヘルメットも使用せず、また女性もたくさん働

(写真12)



いています。2015年に起きたネパール大地震で、建物が壊れたので今でもその復旧作業もたくさん行われています。

こうしたネパールの小規模建設現場での取り組み支援の経験を紹介します。小規模建設業の同業者組合と協力して進めています。建設現場で労働者が墜落したとか事故が起こったとき、これらの職場は政府に登録されていない、いわゆるインフォーマル経済職場で政府からの保険もありません。経営者も被害者がかわいそうだと思うけれど、全部自分でお金を払わないといけなくなると、誰がお金を払うのが問題になります。だったらちゃんと予防しようとか自分たちなりの保険の仕組みを作ろうということで、ILOのプロジェクトがあるわけです。ここでも建設現場向けのアクションチェックリストを作って、経営者と労働者に共同でチェックしてもらってグループ討論をやって改善点を把握してもらいました。

(写真 13)



(写真 13) の中の一番右側の女性はもともと建設現場の労働者でしたが、自分で小さい建設会社を立ち上げて今はこうして人を雇って仕事をしています。自分も同じ立場だったということで、ケガをした労働者がかわいそうだし困ってしまうので、現状を改善したいという思いがあります。そこで自分自身がトレーナーになって、安全衛生とか保険制度づくりの簡単なことを知って、自分で自分の労働者にトレーニングを今一生懸命やっています。こういう風にILOでは現地で継続して活動が進むように現地の労使のトレーナーを育てています。

数か月後にフォローアップでもう一度行ったら、例えば(写真 14)の建設現場では経営者が配って労働者はみんなヘルメットを被って靴も長靴に変わっていました。長靴だから安全上完全とは言えないのですが、それでも以前はサンダルでしたから一歩前進です。(写真 15)の男性も建設会社の社長さんなんですが、労働者の提案を受けて現場にト

イレを作ってくれました。今まではトイレが無くて特に女性は困ってたわけです。さらに進んで行けばいいなあと思っています。

こうやって見て行くと、スリランカでは紅茶のプランテーション組合、ネパールでは地元の建設業組合、パキスタンではスポーツ製品の輸出組合、地元のいろんなパートナーの

(写真 14)



(写真 15)



人と一緒に協力してこうした活動を行っています。そして地元により多くの適切な雇用が生まれ、労働者の労働条件が良くなって、良い製品を生産できるようになることをILOとしても支援しているんですね。

これからの活動の課題

私はまだインドに来て10か月ちょっとなので、すでに経験したこととして紹介できるのは以上なのですが、来週インドに戻ったら次のようなプロジェクトや活動課題があります。

・ Bangladesh の縫製業

Bangladesh は私が学生の頃に独立したばかりで、当時は世界の最貧国のひとつと言われていてどうやって貧困から抜け出すかと苦闘していたのを覚えています。今でも貧困や格差の問題は深刻ですが、統計上はすでに中所得国になっています。Bangladesh でも東南アジアに次いで急速な

工業化が進んでいます。特に縫製業ですね。欧米や日本の企業が Bangladesh に受注して安く作って輸入して我々はそれを買って着ているわけです。

Bangladesh では、2013年にダッカの商業用ビル「ナナプラザ」が崩壊してビルの中で縫製作業をしていた1500名以上の男女労働者が犠牲になりました。原因は工場として設計されていない古い商業用建物に機械を多数据え付けて、先進国へ

の輸出用生産を実施していたことです。その反省にたつて国の産業安全保健制度と職場安全衛生強化というのが課題になっています。これらは先進国が直接作った工場じゃないんです。先進国が作った工場ならその会社の責任になりますが、多国籍企業としてはただ注文を出しただけですから事故が起きても法的な責任を直接問われませんね。だけど人道的にそれでいいのかという声が消費者からも起ったし経営者自身もそう思い、多国籍企業としては今まで以上に下請けに出している工場の生産条件とか安全状況とかにすごく気を使うようになり、消費者の目も厳しくなったわけです。ですから、そういう活動も進めていくところです。

・ 船舶解体業の労働条件改善

それから船舶解体業の労働条件改善のリクエストも来っています。大きな船というのは古くなって使えなくなったら最後はどうなるかということ、多くは南アジアで解体されるんですね。最後に船を解体する国はインド、バン

グラデシュ、パキスタン、それと中国とトルコが多いのです。インドでも船舶解体で有名な海岸地帯があって労働者が労働集約型で解体しているわけですが、危険な作業が多くアスベストなども古い船は



ILO本部 (スイス・ジュネーブ) Martin Good / Shutterstock.com

たくさん使っているんですね。ほかに児童労働の問題もありますし、これは改善しないといけないということで、ILOでも大きな課題になっていて私もこれから取り組むことになります。実はJICA(独立行政法人国際協力機構)も船舶解体業の改善プロジェクトがあります。つまり日本は造船国ですから日本でつくった船のかなりの部分がインドで解体されるので、やはりJICAの援助で安全で健康的な仕組みを作れないかということで、ILOとは別にJICAでそういうプロジェクトをやっているということを最近知りました。何かすり合わせができないかなということも考えています。

・インドの電子廃棄物リサイクル

それからインドでもう一つ要請が来ているものですが、これは電子廃棄物の処理リサイクルに従事する労働者の安全衛生改善です。携帯とかラップトップとかが廃棄されるとどうなるかという、電子廃棄物がたくさん出てくるわけです。インドでも収集から処理リサイクルに関わる労働者がいっぱいいて、作業の中には有害な金属とか化学物質とかも入っているわけですね。そういったものをどうやって安全に処理してリサイクルのシステムを構築するかですね。そういったこと

にいろんな国が関心を持っているので、その辺の改善活動やシステムを作るような活動にも参加するところです。

まとめ

南アジアにおける労働安全衛生改善において、地元の自助努力から学んで労使の主体的参加を推進していくことが大事だと思います。つまり、専門家が行ってあしなさいこうしなさいと言うのではなくて、現場の人達が自分たちで改善していくのを側面から助言者として応援していくこと。政府サービスの届きにくいより困難な草の根の職場、中小企業さらにインフォーマル経済とか小規模の建設現場とかいろんな職場があります。そういったところに何とかアプローチして焦点を当て優先課題として取り組んでいこうと。実際にやっていく上で大事なことは現場ですぐに実践できるトレーニングや方法です。法律がこうなってますからやってくださいと言うだけでは中々変わらないですね。そもそも法律が弱い場合もありますし。それと地元にある労働組合、経営者団体やNGOなどいろんなネットワークと協力して実践活動の範囲を拡大していくことが大事だと思います。

質疑応答**●こうした活動のフォローアップはどれくらいの頻度でやっていますか？**

何かトレーニングをしたら3か月か6か月くらいを目処にチームの誰かがフォローアップに行って、どうなったかを聞いたり応援をしたりします。直接職場訪問する場合もあるし参加した人に集まってもらって発表会をすることもありますがそれはケースバイケースです。

●ILOというのは各国にあるんですか？

まず全ての国にオフィスがあるわけではないのですが、例えば南アジアでいくと、スリランカのオフィスがモルジブもカバーしているとか、いくつかの国をひとつのオフィスが同時にカバーしているというものはあります。

●活動対象の地域や業種、問題についてはどのように抽出しているのでしょうか？

いろんなケースがありますがILOの総会とか理事会での議論を基にします。ジュネーブ本部に定期的に政府と労働者と経営者の代表が集まっているいろんな活動報告をしたり活動計画を立てたりして、どういうことが今問題になっているかということがいろいろ出てくるわけですね。それ以外に国ごとに、インドならインドで地元の政労使からの活動要請とかもたくさんあります。

●児童労働を取り締まった結果、仕事ができなくなってしまった子供達の家の経済事**情が落ちるということはないのですか？**

それを防ぐためにお父さんお母さんの雇用訓練をいっしょにやったり、親がより良い仕事につけて収入が上がるようにするとかのフォローをしています。いろいろな側面があると思いますが子供は働いてはダメだと言って止めさせるだけだと、目の届かないもっと危険な仕事に移動してしまうかもしれないという難しさはありますね。法律の力で経営者を取り締まるということもありますが、地域によっては法律を実施する体制が弱く適用自体が徹底しない難しさもあります。

●医者なのにこの職業を選んだ理由は？

私たちがやっていることは予防医学ですよ。以前病院で患者さんを見ていたこともあります。できれば病気になる方がいいですよ。防げない病気もあるけれど、防げる病気も山ほどあるわけです。特に職業病は現場の労働環境の改善で防げるものがいっぱいあります。それに貧しい人たちは病気になってもなかなか病院に来れなかったりする。予防医学もいろいろあって伝染病対策とか栄養問題とか、あるいは予防医学ではないけれど緊急医療援助とか、学生の頃アジアの現場をいろいろ見ました。私が学生の頃、日本では水俣病とか公害病がひどかったんですね。それを見ていて、これから途上国でも同じような問題が起こると思って工業化とか産業の発展に伴う健康問題の予防活動を専門にしようと思ったわけです。たしかに今の仕事では医師免許は直接必要ないのですが医者であることは



人がやっていくのを見つけて継続的に活動していくのを応援します。

別の例としては、親の借金のために働かされていた子供たちがILOのプロジェクトで救出されて学校に行くようになったとかもあります。歩みが遅くてイライラすると思えますしもっともっとがんばらなければいけないのですが、私の知っている範囲でILOがやったことで一步一步よくなっている面があることも事実だと思います。

役に立っています。さまざまな労働の現場を歩きまわりながら、こんな風にして働いているとこういう病気になるから予防しなくてはとか、それは見えるわけですね。

●今の川上さんのお話は、ある意味では予定調和的なお話をされてるんですが、現場の中に入るとどうしてもあるような感じはします。そういう時にはどうされるのでしょうか？

例えば私が覚えているのは、ミャンマーで軍事政権の時代に強制労働の問題があったんです。その時はILO総会に提出されて議論になって最後は2000年に制裁措置決議が採択されました。その後、進展があり2012年のILO総会で制裁の解除が決定されました。

あとは労働組合を作るのを応援していたり活動を応援して行くというのもあります。例えば先ほどのインドの船舶解体業とかそこにも組合があるんです。地元にはがんばっている人たちが必ずいるわけです。現地の

●自助努力と地元好事例からの学びというのは、今日川上さんが何度も言ってましたが、自分たちが学ぶだけじゃなくて第三者が教育するというのも実際にはやっているわけですね。

実際には私もいろいろなプレゼンをします。改善の手法や事例を見せたりしてですね。現場改善のための即物的なテクニックの話をしているように見えるかもしれませんが、そこには人権に基づいたILO条約の普及という背景があります。ですから労働者参加が大事ですよとよく言います。地元で政府、労働者代表、経営者代表を一緒に呼んで会議をする機会を作るだけでもすべての協力を取り付けるのに苦勞する場合がありますが、大切なインパクトがありますのでILOとしては譲れないポイントです。

(終)

(ここで表明されている意見は講師個人のものでありILOを代表するものではありません)

学校法人 ABK 学館 創立5周年記念行事

海外協定大学日本語教育事情セミナー

今年創立5周年を迎えた学校法人 ABK 学館日本語学校（ABK カレッジ）が、6月2日（土）記念行事を開催しました。今回はその中から佀校長のご挨拶および、モンゴルとバングラデシュの協定大学からいらしたお二人の先生によるそれぞれの国・大学の日本語教育事情に関するお話をご紹介します。

ご挨拶

ABK 学館日本語学校 校長 佀 吉一

本日はお忙しい中おいでいただきありがとうございます。まず始めに、ABK 学館というのは出来て間もなく、あまり世に知られておりませんので少しご紹介させていただきます。

ABK 学館の元となったのは公益財団法人アジア学生文化協会ですが、そこに日本語コースを35年前に作りました。そこからスタートをしまして、ちょうど5年前に新しい学校を作り、名前を ABK 学館日本語学校＝ABK カレッジとしてスタートした次第です。特にその当時は東日本大震災の中で、ようやく100人を集め、そこからスタートをいたしました。対象としたのは従来の大学に進学する学生ではなく、中心はアジアの大学生、あるいは大学を卒業した人で、彼らが日本で新たに日本語、あるいは日本の文化を軸に学び、かつ実践的に社会に出て行くことを学校の目的としました。そして、できるだけ多くの国の方が一緒に学ぶ、相互理解をしつつ自分の人生の目的を遂げて行く。その場として ABK カレッジを提供しようということ、小さいながらもスタートしたわけです。この間、取り組んできたことにはいくつかありますが、主なものを申し上げていき



いと思います。

一つはアジアの大学が日本語、日本文化教育等で一生懸命がんばっておられるわけですが、そういう方々と一緒になって、私たちができることは何かということで、アジア大学連携というのを進めてまいりました。今現在ようやく8校を迎えております。具体的には毎年2名の短期留学生を招聘して ABK カレッジにて勉強していただき、その感想等を母国に持ち帰っていただいて、日本語の勉強をしている方々に経験を伝えていただく。そういうことをやっております。

今回は創立5周年ということもあり、その延長として、モンゴルとバングラデシュから

大学の中心であります日本語の先生を招聘しましたので、日本語教育を行うアジアの大学における、あるいはその国における日本語教育事情等を、直にみなさまに聞いていただきたいと思ひます。

2番目としては就職支援ということを行なっております。アジアからの優れた学生さんで日本に興味をもっている人がたくさんおられますが、彼らの母国で日本語等を学習した人の活躍の場所は少ない。日本で今、必要としているアジアの高等人材をうまく活かす方法はないだろうか。そうすることで、双方でやがてまた日本及びアジアの発展の夢を見ることが出来る。そんな関係を築ければと思ひ就職支援を行なっております。私どもの就職支援というのは日本語教育等を通じて行っているわけですが、今内定数が50件ほどあります。

この学生の就職については、中小企業の方にはけっこう喜んでいただいております。留学生の方々に日本が大好きだというようなコンセプトがきちっとある中で、日本人とどんな風に仕事をしていくかということですから、お互いに信頼関係を築きやすいということを特徴としています。

3番目に、昨今、日本語学校が非常に増えまして、この5年間で400校が800校近くまで増えています。それから日本語学校生も4万人ほどだったのが、8万人という数字になり、5年で倍になっています。これは物凄い変化なんです。

そういった時に、日本語学校の中心となつて一番働いていただいているのが、日本語の先生なんです。日本語の先生はそれほどたく

さん日本社会にいるわけではありませぬし、国が特別なサポートをしているわけでもありません。そういった中で、日本語の先生の大切さを逆に知ってもらいたいと思ひています。ただ私たちが出来ることは限られていませぬので、今は内部、外部ともに、もう先生になられた資格をお持ちの方を対象にした研修コースを行っております。資格をとったけど、まだ実戦の経験がないという方や既に教壇に立たれている先生方が、事例とか養成講座等で獲得できない面をお互いに勉強しながら自分たちを磨いてもらおう。そのための場を私たちが提供するというところで、始めているところだす。

この3点が今取り組んでいるところだす。私たちは非漢字圏出身学生の比率が非常に高く、70パーセント近くまでいっており、しかも国がバラバラなので、この点では先生方にはご迷惑をかけています。いろいろな国の方が一緒に勉強するというのは、教える方は大変だとは思ひつつも、わがままを言わせていただひて、アジアのいろいろな国の人がそれぞれの国の文化を理解しながら人生を磨き上げて、そして日本語を核として、アジアの人々の仲間作りにきつと役に立つのではないかという確信のもとで、無理をお願いしているところだす。

以上、3点に重点をおきまして、今回の記念セミナーを開催いたします。

今回、5周年にあたって、懇談交流の機会をみなさまにやつと提供できたということを感じて、これをもってご挨拶したいと思ひます。ありがとうございます。

ABK学館 創立5周年記念行事 海外協定大学日本語教育事情セミナー

モンゴルの日本語教育事情

モンゴル文化教育大学 日本語学科 日本語教師 プレンチ メグ

モンゴルの概要と

モンゴル文化教育大学の日本語教育

今日はモンゴル文化教育大学の日本語教育事情について発表したいと思います。

まずモンゴルの概要について簡単に紹介したいと思います。モンゴルの国土は日本の約4倍で、人口は2017年時点で317万人、首都ウランバートルには146万人が住んでいます。言語はモンゴル語で産業は牧畜、農業、近年は鉱山業が進んで来ています。

日本と外交関係を樹立したのは1972年で、日本語教育は1975年からスタートしました。2015年のデータではモンゴルの日本語教育機関は76校で、うち小中学校は31校、高校は23校、大学は22校となっています。学習者数は9626人とされています。

続きましてモンゴル文化教育大学の紹介を簡単にしたいと思います。モンゴル文化教育大学の前身は1993年に公益財団法人ハーモニーセンターの投資によって設立されたユートピア日本語学校でした。当時は日本語だけを教えていたのですが、1996年に4年生大学に昇格しました。名称はモンゴル文化教育大学となり、日本語通訳と日本語翻訳という二つの学科でスタートしました。現在は日本語通訳翻訳学科、日本語事情学



プレんチ メグ先生

科、国際ジャーナリスト学科、国際経済経営学科、コンピュータープログラム学科、観光環境学科と6つの学科があります。

本学の特徴として、すべての学科が4年間日本語を必修科目としていることが挙げられます。日本語通訳翻訳学科、日本語事情学科以外の4つの学科の学生達も日本語を必修科目として4年間勉強します。本学に入学してくる学生は日本語や日本文化に深い興味を持っていて、日本に行きたいという学生達だけです。

日本文化を紹介するイベントが多いというのも、私たちの大学の特徴だと思っています。毎年12月に文教祭というのが行われ、1年生は歌、2年生は演劇、3年生はスピーチ、4年生は詩の朗読をすべて日本語で行



それぞれの書道作品を持つ学生たち



学生達が自作した紙芝居

います。

また「日本語と日本文化紹介の1週間」というイベントもあります。この1週間に生け花、書道、ちぎり絵、折り紙、日本語クイズ大会、創作漢字大会、作文コンテスト、早口言葉コンテスト、日本の歌のカラオケ大会などが行われます。また、紙芝居体験とか茶道体験、浴衣試着体験などたくさんあります。

私は2005年に国際交流基金で勉強をさせていただきましたが、生け花など、いろいろな日本文化体験をさせてもらい、そこから生け花を教え始めたりしています。

12月の学生達による文教祭には、日本大使館をはじめたくさんのお客さんが来場します。他の大学の日本関係の先生方もわざわざ文教祭を見に来られます。文教祭では学生たちによるファッションショーも行います。これら日本文化の習得も全て必須単位に入っていますから、必ず勉強しないといけないんです。

また本学は提携関係のある日本の大学、専門学校、日本語学校が多いということが言えます。例えば桜美林大学、成城大学、

国士舘大学、立教大学、中央大学、拓殖大学、白鵬短期大学などです。専門学校や日本語学校ではABK学館や大原日本語学校、横浜デザイン学校などがあります。

これら各校のご協力のおかげで学生達は日本に留学する際、学費の減免や学生寮の提供、アルバイト先の紹介などを受けることができ、勉強に専念できる環境を提供してもらっています。

桜美林大学とは毎年8月に、本学所有のツーリストキャンプにて共同で環境研修を実施しています。昨年からは立教大学の日本語教師養成プログラムの学生たちが、本学で教育実習を行ったりしています。

ウランバートル市内から65キロ離れているところに私たちの大学所属のシリボラグツーリストキャンプがあります。そこには日本人の観光客はじめ内外の観光客が訪れています。

このツーリストキャンプの特徴は、スタッフが全員モンゴル文化教育大学の学生だということです。乗馬インストラクター、ウェイトレス、ゲル係などすべて日本語を学ぶ学生達です。この活動も3単位になっ

ていて、全部必須単位として扱われます(笑)。期間は夏休みの3か月間で、6月1日から9月1日までです。キャンプには日本からお客さんがたくさん来ますから、学校で勉強した日本語を実際に使うチャンスだと思っています。学生も喜んで全員参加していますから、良い実習活動になっていると思っています。

日本語学習者について

2018年5月現在、本学の学生数は約380名です。そのほか毎年夜間日本語コースで20名ほどの社会人が学んでいます。

学生の男女比は男子が3割、女子が7割となっています。学生の年齢は17歳から20歳が多いですが、中には他の専門で大学を卒業してからうちの大学に入学して来たり、社会人を経験してから入学してくる20代後半～30代半ばの学生もいます。

レベルとしては1年生の1年間でN4レベルまで勉強します。『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク)の1と2ですね。5月から翌年の12月まで勉強して、N3またはN4に合格できます。がんばる学生達の中にはN1を取得する学生もいます。

毎年の春に在モンゴル日本大使館にて日本政府の国費留学生試験が行われますが、本学からは1999年に3名の合格者が出たのを皮切りに毎年合格者が出ていて、これまでに28名の国費留学生を日本に送り出してきました。毎年モンゴ

ルからの合格者の半数にあたる50%を本学の学生が占めているというのは、自慢できる成果の一つだと思います。

日本語の学習動機について

学生達が日本語を勉強しようと思った動機ですが、動機というのは本当に大事だと思っています。

日本語を学ぶ動機として一番多い理由は「日本語は独特で聴きやすい言語で好きだから」というもので54%でした。続いて「日本語とモンゴル語の文法的構造が似ているから」、「日本人の文化、特に生活習慣がモンゴルと違うから」、「日本の発展した技術を吸収して、モンゴルに活かしたいから」と続きます。中には「漢字の書き順が多ければ多いほど、面白く感じるから」という学生もいました。「日本人はお互いに尊重しあい、ずるいことをしないから、日本語が好き」という学生もいます。

“好き”という気持ちはお金では買えない



シリンボラグツーリストキャンプ

ものですね。私は2005年に国際交流基金の発表でもそう言いましたが、“好き”というのは外国語学習にとって武器です。それは、給料が上がるからそこで教える、こうしてくれるからそうする、ということではありません。好きは無条件ですね。私たちが、がんばれば、日本が大好きな人がどんどん生まれてくると思います。



実践授業で教壇に立つ学生

大学卒業後の進路について

卒業生のモンゴルでの主な就職先を見ても、外務省、教育文化科学スポーツ省、労働省、入国管理局などたくさんところに就職をしています。日本での進路を見ても、文科省の国費留学生のほか私費留学などで日本の大学や大学院に進学した学生も大勢います。モンゴル文化教育大学で身につけた日本語を活かして国際関係やコンピューター、医学、法律学で修士号、博士号を取得した卒業生も大勢います。

日本に進学したあと、日本で就職した卒業生も少なくありません。彼らは中小企業、大手企業、貿易業、空港などで働いています。また、自分で起業した卒業生もいますし、その後欧米に行って活躍している卒業生たちもいます。

大学での授業

これから授業における実践報告をしたいと思っています。

勉強した各課から理解できた項目は何か、理解できていない項目は何かを明らかにす

るために学生達に50課までの授業が終わった後、その場で無作為に学生一人を指名して他の学生にその課の説明をしてもらっています。事前に当てておくのではなくてその場で、あなたは30課を、あなたは40課を教えてくださいと指名するんですね。

指名された学生は教師役になって、学習項目を自分の言葉でクラスメートに説明します。その間先生方は口を出さないように我慢してもらいます。そして、学生の説明が終わったあと、質問をしたり説明を加えたりします。

学生達はクラスメートに自分が学習したことを説明することで、学習項目を整理でき、足りなかった部分や間違っ理解していた部分に自ら気付くことができるわけです。

もう一つ、学生研究発表というのをやっています。

具体的には、学習者に日本語とモンゴル語の比較をしてもらいます。「格助詞、自動詞と他動詞、使役、受け身、敬語」などについて両言語を比較してもらったり、日本とモンゴルの文化・習慣における相違点・

相似点について考えてもらいました。これは日本語を学習している学生達にとってとても興味深い研究のようでした。教師役になった学生達は自分の研究した知識を他人に伝えることになっていて、それがきっかけでさらにいろいろなことを調べることができた、という感想がありました。

教師主導の授業だけではなくて、学生達からのアウトプットや共同学習の場を設けていくことで、自ら調べ発表する力を養っていくことができたと思います。

モンゴルにおける日本語教育の展望

最後に今後のモンゴルの日本語教育についての展望についてお話ししたいと思います。

現在、モンゴルにおける日本語教育について、ウランバートルにある日本語教育機関の先生方にアンケート調査を行なった結果ですが、どこの大学の先生方からも、最新の日本語教育についての情報が足りない、日本人ネイティブ教師がいないという悩みが聞かれました。特に教科書、教材や教授法についての情報がモンゴルではなかなか入手しにくいのが現状です。

私が20年間日本語を教えている立場で見ると、近年、日本への送り出し機関の増加により、民間の日本語コースで勉強する社会人学習者の数が増えています。そして年々、日本語能力試験を受ける者が増えているという事実は、日本語、日本文化、日本への熱意の表れそのものだと考えています。

いろいろな課題を乗り越えて学習者たちの期待に応え、学習者がよりレベルアップ

できるようにすることが、今後私たち日本語教師の役目だと考えています。

ありがとうございました。

質疑応答

(質問) 大学のカリキュラムを拝見すると、「夏のツーリストキャンプで体験をしながら学ぶ」とか、「グループで紙芝居を作って発表する」とか、勉強したところを他の学生に教えることによって自分の理解を確認するという主体的な学び方、気付きのある学び方というのは、私自身興味を持っているので、いいなあとお話を伺っていたのですが、こうしたカリキュラムの作成というのはどのように行われたのでしょうか。モンゴルでは他の大学や専門学校でも行われていることなのでしょうか。

(回答) 私たちの大学が他の大学と違うところは、4年間日本語を勉強しないと卒業できないということです。それは他の大学の方から見ると厳しいかもしれませんが、日本語の学校ですからそれは必ずしなければなりません。まずそういった前提があるということです。

カリキュラムについては学校によって別々です。国立大学は国立大学のものであり、私立大学もそれぞれ違うカリキュラムのもとに教育を行っています。

そして私たちの大学には日本史、日本事情、日本の俳句、短歌など様々な授業がありますが、カリキュラムは先生方が自分で考えて作っています。これを教えたいなあ

とか、これをやれば効果が上がるかもしれないと思ったら、教務課、主任に相談をして実現させます。

私たちは今、モンゴルで日本語を勉強している学生達に何が足りないのかということがよくわかっています。その足りないものを補うためのカリキュラム作成を行って

いるということです。

学生はだいたい1年でN4に合格できます。さらによく勉強している者はN3に合格できています。私たち教師はもっと上を目指して、N1を目指しています。先生方は朝から晩まで1か月100時間くらい教えています。

ABK学館 創立5周年記念行事 海外協定大学日本語教育事情セミナー

バングラデシュの日本語教育事情

ダッカ大学 現代言語研究所 (Institute of Modern Languages= IML)

日本語文化学科准教授 アラム モハメッド アンサルル

バングラデシュの概要と日本語教育

今日は簡単にダッカ大学を中心にバングラデシュの日本語教育事情についてお話しします。

まずはバングラデシュの基本情報についてご紹介します。バングラデシュの人口は1億6000万人です。日本の人口は150年で3倍になったという話を聞きましたが、バングラデシュの人口は独立した1971年から46年間で2倍以上になっています。

言葉はベンガル語が中心で、ほとんどベンガル語ですが、少数民族はそれぞれの言葉を使っています。

バングラデシュではいろいろな外国語教育が行われています。例えば私が所属して

いるダッカ大学の現代言語研究所 (IML) の場合、英語、アラビア語、ウルドゥー語、ペルシャ語のような言語はずっと以前から専攻科目として学ばれていますが、言語そのものよりも文化や文学という形での専攻になっています。そして一般コースとしてドイツ語、韓国語、スペイン語、ロシア語といった言語が、こちらは100%外国語教育という形で行われていて、ここ最近フランス語と日本語、中国語が専攻課程に加わりました。今からちょうど2年前にフランス語が、中国語と日本語は1年半前に専攻課程となり、授業が始まりました。

他の大学でも、日本語や中国語は外国語として、日常会話、あるいは初級レベルでの教育が行われています。

バングラデシュの日本語教育の歴史ですが、1971年の12月にバングラデシュの独立戦争が終わった半年後、72年の7月からダッカ大学と日本大使館の中で日本語講座が始まりました。つまり独立直後から日本語は教育されているわけです。その後長年にわたって、ダッカ大学を含めたいくつかの国立大学と民間の学校で日本語が教育されていて、2016年にはダッカ大学に4年間の学士取得専攻課程の日本語文化学科ができました。

そして同じ2016年の日本語教育の大きな変化として、日本語教師会が設立されました。会員はまだ30名のみで、うち現地人が24人、日本人が6人、現在は主に勉強会や情報交換などを行っています。将来の予定としては教師研修セミナー、研究会などを考えています。

この教師会の6人の日本人教師ですが、もともと専門家として来られているわけではなく、例えばご主人がバングラデシュ人で長年バングラデシュに滞在していて日本語を教えているという方が多くて、現地人も大学の教員は私と私の同僚一人だけです。ほかは私たちの教え子の民間学校の教師で、日本語能力試験N4かN3レベル前後の人々です。ですから日本語教育研究というような難しいことよりも、基礎的なことを教えている時に、どんな問題にぶつかっているかといった話からスタートしています。

バングラデシュの日本語学習者

バングラデシュの教育段階別学習者数で



アラム モハメッド アンサルル先生

すが、国際交流基金の2015年度の調査によると、全体の学習者数は2000人を超えているとのことですが、初等教育機関ではおそらく日本語教育は行われていないとのこと。中高は127人で全体の5.9%、高等教育機関、つまり大学などは631人で30%ほどです。あとの大多数、1400人が民間学校の学生です。

高等教育機関の中でも正規課程として日本語の専攻課程があるのはダッカ大学だけですが、専攻ではない場合でも、学生が大学の学籍番号を持てる場所はやはりダッカ大学のIMLしかありません。

他のところはどのように教育しているのかというと、例えばある大学では言語センターがありまして、そこに自由に入って、3か月とか半年の授業を受けます。ただしそこに入っても大学の学籍番号はもらえません。履修証明書は発行されますが、どち

らかというと民間学校と近い形で日本語が教育されています。

日本語教育機関と教師数についてはこの10年段々と増えており、今、学校数は37校くらい、教師も100人近くいます。

学習者が日本語を学ぶ動機ですが、これはほぼ100%が日本留学で、バングラデシュの日本語学習者の特徴ではないでしょうか。この理由の一つに、日本大使館で留学のビザを申請する時の条件として、150時間の日本語コースを受講していること、あるいは能力試験のN5を持っていることが条件となっているため、ということがあります。

日本での留学先ですが、7-8割は日本語学校で学んでいます。そして1-2割は大学院、つまりバングラデシュで何らかの専攻の学士課程を修了したあと、日本の大学院に進学しているということです。

日本留学以外の学習動機ですが、もちろんバングラデシュの日系企業に就職したいという人もいます。その他、1-2%は超えないと思うのですが、最近ではアニメが好きで学んでいる人もいます。50人のクラスだと3-4人はアニメのことを知っています。一方で、マンガという言葉はまだあまり知られていませんね。バングラデシュのテレビではドラえもんなども放送されていて、日本のことに興味を持つ子も出始めています。特に女の子ですね。

もちろん空手を習っている人とか、生け花をやっている人もいて、そういう人はまた別の目的で日本語を勉強しています。ただ、ほとんどは日本留学か日系企業への就

職を目指して日本語を勉強しているということです。

バングラデシュの日本語活動の現状を言うと、全国で1977年からスピーチ大会が行われていて、2001年からは日本語能力試験が実施されています。余談ですが、以前この試験を受けるためにはビザを申請してインドまで行かなければなりませんでした。実はインドのビザ取得はアメリカのビザよりも難しいんです。そういう面倒で難しい手続きを経て、能力試験を受けた人も数人でしたがいました。

またこれはダッカ大学の中でのことですが、2008年からスピーチ大会が行われています。これはまだ2回しかできていないのですが、参加者はダッカ大学の学生だけに限っています。

2006年からは国際交流基金のデリー事務所から専門家がいらして日本語の巡回セミナーが行われていますが、この4-5年は実施されていなかったようです。それがまた今年の4月に日本語教師会との共同開催で、久しぶりに行われました。

以上、おそらく南アジアでも、スリランカ、インド、ネパールに比べると、発表できるほどの活動は行っていませんが、日本語教育活動ではこのようなことが今現在行われています。

ダッカ大学の現代言語研究所 (IML)

私が所属しているIMLの概要についてですが、言語学科数は現在13ですが、年によっては開催されない言語もあるため常時

13～15の言語を教えているということになります。

学生は非専攻課程と専攻課程、それに夜間コースと、主に3種類の学生がいます。在籍者数としては1800人から2000人くらいになります。英語についてはもともとは大学の英文学科がありますが、現代言語研究所の英語はELT (English Language Teaching) といって、英語言語とその教え方を中心に学びます。1学年枠は40人です。なおフランス語と日本語は25人で、中国語は35人です。日本語学科の常勤講師は4人、中国語は2人なのですが、中国語学科からは学生数を35人にしたいという希望があり、大学側の許可がおりました。その理由は、今、バングラデシュには中国企業が多数進出して来ており、ニーズがともあるからです。ですから中国語の枠はあと1～2年で50人になるのではないかと思います。

次に日本語学科のことをお話ししますと、例えば非専攻課程ですが、1年目であるJunior Certificateコースの2017-2018年度の在籍学生数は170人ほどでした。実はちょうどこのあいだ、期末試験があったのですが、これを受けたのは65人ほどでした。そして2年目のSenior Certificateコースの学生数は35人まで減ります。さらに3年目のDiplomaコースでは3人となり、4年目のHigh Diplomaコースには2人しか残っていません。これは今年の例ですが、この数字は毎年ほぼ同じです。最初のJunior Certificateコースについてはたまに200人以上の学生が集まる年がありますが、3年

目、4年目になると4～5人しか残らないというのが現状です。

ドロップアウトの理由はいろいろあります。まず非専攻課程ということで、自分の専攻課程の勉強が忙しいということもありますし、専攻課程を卒業して就職してしまうということもあります。もちろん日本語が難しいから辞めるというケースもあります。

もう一つ別にElementaryコースというのがあり、ここには116人の学生がいますが、これは150時間の特別コースで、どちらかというと、日本の日本語学校に留学したい人のためのコースになります。

コースの在籍者数についてはピラミッド型で、上の方に上がるにつれて減ってってしまうということですね。これは一つ大きな課題ではあります。

そして一昨年できた専攻課程(日本語文化学士課程)ですが、ここでは4年間で124単位取得が必須となっています。FoundationとかArea Studiesといった授業がありますが、Language = 日本語の必須単位は56単位で、全体のほぼ半分です。同時に新設されたフランス語、中国語の場合は40単位ほどなので、それよりも多いということになります。私たちが考えるに、日本語力については少なくともN2以上の能力を付けないと卒業後、就職などいろいろなことで困りますから、ほかの科目を減らしてでも日本語の時間を増やしたいということで、学校側と交渉して56単位にしました。

また、Area Studiesは日本の歴史や社会、政治、地理、などを学びます。それらの授

業は3年目、4年目からのスタートなので、まだはっきりとしたことは決めていませんが、できれば日本語のテキストを使うことで、さらなる日本語の上達になるのではないかと思います。

Theory and Application という科目は就職のことを考えたもので、翻訳やガイドのコース、日本語教授法の授業などを設定しています。

1期生は今12人しかいません。入学時点では20人いましたが、この1年で8人が落第し、2年目の今年は12人となっています。さらにここから3-4人は3年目に進級できない恐れがあります。

私は第1期生の担当で、全員に個人面談もしているのですが、誰一人として「私はこの学科で勉強したかった」と言う学生はいませんでした。つまりダッカ大学の入学試験で、他のどの学科にも入れなくて、最終的にこの学科しか残ってなかったから入ったということなんです。これは何らかの目的があって、日本語を学び始める非専攻課程の学生と大きく違うところですね。

ダッカ大学では外国語専攻課程の人気は高くありません。入学試験の成績が他の学科に入れる基準になかったために、仕方なく日本語やフランス語などの外国語学科に入る学生がほとんどです。つまりダッカ大学の学生になりたかったら、外国語学科に入るしかなかったということですね。もちろん、外国語はどうしても嫌だということで、他の学科の空きを待つ学生もいます。

もともとダッカ大学は高校と中学の卒業試験で決まった点数以上を取った者でない

と入試を受けることができません。この成績を取れる学生は全受験生20万人うちの5000~6000人だけです。ですからみんな優秀であることに変わりはないのですが、馴染みのない、あるいは難しそうな専攻は取りたくない、勉強したくないということです。

ただ、そういった学生の中でも1週間、2週間日本語を勉強してみて、面白いなと感じ、真面目に勉強し始める学生もいます。ですから、この7月で開講1年半経ちますが、今回N3を受験する学生もいます。

バングラデシュの 日本語教育における課題

語学を続ける上で、やる気の問題はもちろん大きいのですが、その他にも落第者が多い原因はあります。

ダッカ大学の文系学部には政治学とか歴史学とかいろいろな学科があります。これらの学科では極端な話、一年間遊んでいても試験の一週間前だけ勉強すれば、なんとなく普通の成績で合格できます。しかし日本語など外国語の勉強は、1週間、2週間ではできませんね。そこにおそらく勘違いがあるのだと思います。普段遊んでいて来週から勉強しようという考えでは、間に合わないんだということを理解していなかったのではないのでしょうか。

日本語学科の1期生は8名落ちて12名しか2年目に進級できなかったわけですが、その中の3-4名は成績が良くて、残りはまあまあという感じですが、中国語学

科は1期生35名のうち、一人も落ちていないんです。成績も30名くらいはGPA (Grade Point Average=成績評価値) 4のうちの3以上です。これは本当に不思議です。ですから、どんな問題を作っているのか、どのように評価しているのか、今、私たちは所長も含めて疑問を持っています。

こうしたこともあり、私たち日本語学科では今後どのようにしていくのが良いのか考えています。今の基準でいくのか、あるいは他の言語学科に合わせて、全員にプラスを与えて通すのか。落とされる学生もかわいそうですから、本当に悩んでいます。

ただ言えるのは、4年間勉強して卒業できたとしても、レベルが低ければ、就職できませんし、大学としてどんな卒業生を育成したのかということも問われます。ですから、なかなか難しいところです。

全体の課題としては、カリキュラム、特に学士課程の細かいカリキュラムはまだ最後まで出来上がっていません。日本語学科にネイティブの教師がいないということもカリキュラム作成上少し問題があります。

もうひとつ大きな課題は日本語教育に携わる人々、あるいは日本語関連機関の中でのネットワークが出来ていないということです。私は国際交流基金で2004年から2005年にかけて修士課程を勉強したのですが、帰国後、日本大使館にはこうしたネットワークが必要だとよく話しています。



どこで誰がどんな目的で何をしているか、どんなことで困っているか、お互いにどういうサポートができるか、まったく情報がありません。情報を得たいと思ったら、ホームページで国際交流基金のサイトを検索して、調査データを見るくらいしかありません。今は日本語教師会ができましたから、全国でいろいろな調査を細かいところまでしたいと思っているのですが、ただ教師会が行っても協力してくれない可能性がありますから、大使館にサポートしてもらえないかというお願いをしています。大使館にもいろいろなプロトコルがありますから、なかなか実現出来ないのですが、そこはひとつの課題だと思っています。

また、ダッカ大学を含めた国立大学の場合、教師の役割というのは授業で教えることだけです。学生が卒業できるかできないか、就職できるかできないか、本当に関係ないんです。

私は今准教授ですが、時が来たら自動的に教授になります。給与も上がります。学生の進路結果は何の関係もないんです。で



佃校長からお二人の先生に記念品の贈呈

すから、日本語教育環境をより良いものにしていくためには、本当に教師自身がその必要性を感じてやるしかないんです。そこは一つ大きな問題です。誰も命令することはできません。私立大学は多少コントロールされていますが、国立大学はその点自由過ぎるとも言えます。

質疑応答

(質問) 日本では留学生だけでなく、外国人の人たちに働く人材として来てほしいという動きが非常に出て来ているのですが、バングラデシュでも日本企業からの誘いはあるのでしょうか。

(回答) ダッカにいる日系企業のほとんどは、ダッカ大学に日本語の専攻課程ができたことは知りません。ですからまずは大使館やJETRO(日本貿易振興機構)を通して、日本語専門の学科が出来たことと、あと2-3年で卒業生が出るという情報を流して

もらえればと思っています。その時、日系企業ではどのような人材が求められているのかというオープンディスカッションができればと思っています。

仕事をするということは、単にN2が必要かどうかという問題ではないと思いますが、私たちにはほかの情報はありませんから、何をどのように教えたらいいのか、卒業生が就職1日目から働けるようになるには、何

を教えればいいのか。そういったことは実際に企業に入って、関係者の話を聞いたりしないと決められません。

大学にコースを新設する際、普通はいろいろな場所でまずいろいろな調査をしてから作るわけですが、バングラデシュのような発展途上国では、まずなんとなくコースを作ってしまうと、それからどうするか、逆のパターンで考えるんですね(笑)。

(質問) ダッカ大学では日本語は週何時間教えるんですか？

(回答) 非専攻課程は4時間から6時間です。2コマから最大3コマですから1年間で120時間です。つまり問題なければ半年で終わってしまうこともあります。その後復習するかどうかは教師の指導次第です。終わったならそのまま、という人もいて、それも一つ問題です。

専攻課程の場合は、週8時間です。年間で授業があります。

新星学寮建替え募金 2018年6月30日現在

募金目標額：30,000,000円

募金期間：2017年12月～2019年3月

募金額：31,009,520円

<2018/5/1～6/30 寄付者> 尚捷 Shang Jie、永井和子、五島文雄、奥山節子、小木曾建(2)、家田文隆、小倉美恵子、中島純司、外山経子、Lê Bá Phúc、Lê Văn Hiến、Liên Hoa、Nguyễn Thái、Nguyễn Tiến Quang、Phan Văn Ngân、Trần Thanh Việt、Vũ Mạnh Huỳnh、徐世傑

寄付者：計182名

(あ) 秋庭一衛、厚見利子、新井かよ子、新井良文、安藤哲夫 (い) 家田文隆、池森亨介、石川清、市村幸男、伊藤順、伊藤源之、井上駿、今西淳子、岩井秀明、岩尾明 (う) 上野長一、内田誠、宇戸清治 (え) 江口義弘 (お) 大木隆二、大杉立、大田原康彦・真澄、大野大平、大益牧雄、小川巖、小木曾建、小木曾友、奥山節子、小倉美恵子、小田中聡樹、小野澤史、小野ちづ子、小野寺武雄 (か) 加瀬勝子、勝部純基、加藤福和 (Đinh Văn Phước)、金子新平、金田和子、鹿野快男・博子、川上剛、川口善行、川崎依邦 (き) 菊地満寿美、城戸康通 (く) Nguyễn An Trung、Nguyễn đức Hòa、Nguyễn Ngọc Duyên、Nguyễn Hồng Quân、Nguyễn Thái、Nguyễn Tiến Quang、Nguyễn Văn Ân / Đỗ Văn Dũng、Quách Đình Huân、工藤 (萩野) 正司、久保哲也、熊沢敏一、倉内憲孝 (け) 計宇生・孟令樺 (こ) Ngô Diệu Kế、高秉澤 / 姜英園、五島文雄、小林正治、小林孝信、小宮信介、小山芳江、是澤優、近藤恵子、近藤壮一、近藤昇 (さ) 斉藤泰生、三枝辰男、榊正義・正子、笹村出、佐藤正文、佐藤亮一・説子 (し) 重田誠一、清水勇治、徐世傑 (Chee Sze Keat)、尚捷 (Shang Jie)、白石勝己、代田泰彦、新宅光 (す) 杉浦正健、鈴木智、鈴木典之、須藤妙子 (せ) 関川弘司、関谷操男 (た) Đào Hữu Dũng、田井良知、田井亮吉、ダオ・チ・ミン (Đào Thị Minh) / ト・ブルー・ルーン (Tô Bửu Lưỡng)、高橋作太郎、高橋滋、竹治智、田中克江、檀良 (Đặng Lương Mô) (つ) 佃吉一、土屋元子、鶴尾能子、鶴園裕 (て) テイ・メン・フェイ (Tay Meng Fei) (と) Dương Văn Quả、Trần Thanh Việt、Trương Văn Tân、Trần Văn Thọ / Tuyết Minh、Trần Việt Hùng、(一社) 東京華僑総会、外山経子、寅野滋 (な) 中島明彦、中島純司、永井和子、永井ひろみ、中曽根信・不二、中野正明、中島正喜、中原和夫、永山寿子 (に) 西岡佐代子、西川恵 (は) 萩原伊助、浜崎永壽、濱屋悦次、林均 (ひ) 氷高律子、平峯克、広江重徳 (ふ) Phạm Vũ Thịnh、Phan Văn Ngân、Vũ Mạnh Huỳnh、Vũ Tất Thắng / Vũ Thị Tuyết、Huỳnh Mùi、符祝慧、福壤二、福井弘之、福本一、布施知子 (へ) ヘン・フ・チョン (Heng Fu Chong) (ほ) 穂積亮次、堀香奈美 (ま) Mai Văn Hào、馬杉栄一、松岡弘、松原許子、松本國男、眞山静子 (み) 水田誠、湊勝昭、三代沢史子 (む) 村田進、村山富市 (も) 森尾正照 (や) 安川隆子、柳瀬修三、山川民子、山口憲明、山田真美子、山田守一、山本章治 (よ) 米田康三、米長泰、米満良暢 (り) Liên Hoa、劉錫江、林登居・ヒサ子 (れ) Lê Bá Phúc、Lê Ngọc Thảo、Lê Văn Hiến、Lê Văn Tâm、匿名希望1名 以上

新しい新星学寮が完成しました！

皆様のご支援のもと進められていた建替え工事が終わり、新しい新星学寮が完成しました。今後、家具などを入れたあと、正式なお披露目を予定しておりますが、ここに少しでも建物の様子をご紹介します。



地上3階建です



玄関はオートロック。その前にはかわいいポスト



交流の場となる1階リビング

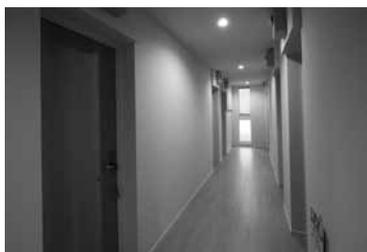


居室は2、3階に各7室。1階に2室（含管理人室）



女性も安心の大型シューズボックス

ゆったりと使えるシャワールーム



温もりを感じる廊下

大きく機能的なシステムキッチン



<https://www.abk.or.jp/donation/progress.html>



奨学金情報

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます (<http://www.jpss.jp/ja/>)

公益財団法人 渥美国際交流財団 奨学金

● **応募資格** ①日本以外の国籍を有し、日本の大学院の博士(後期)課程に在籍し、2020年3月(秋入学は2020年9月)までに博士号を取得する見込みのある方。正規在籍年限をこえたために、或いは、海外の大学院より博士号を取得するために、研究員等として日本の大学院に在籍する方も含みます。②在籍する大学院研究科(研究室)と居住地の両方が、関東地方(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県)にある方。③日本語が堪能な方(応募書類と面接は日本語だけです)。④国際理解と親善に関心を持ち、当財団の交流活動に積極的に参加する意志のある方。

● **給付金額** 月額 20万円

● **給付期間** 2019年4月～2020年3月、または2019年9月～2020年8月(継続は認められません)

● **採用人数** 12名程度

● **応募方法** 主催者ホームページより募集要項等をダウンロードし、必要書類を郵送で提出する。詳細は主催者ホームページで確認

● **応募期間** 2018年9月3日(月)から9月28日(金) ※最終日17時以後に財団事務局に届いた申込書は受け付けない。

● **主催者** 公益財団法人 渥美国際交流財団

ホームページ <http://www.aifs.or.jp/>

公益財団法人 とうきゅう留学生奨学財団 奨学金

● **応募資格** ①日本に勉強または研究のために来た外国人留学生・財団が2か月に一度開催する交流活動に参加できる者 ②次の国籍をもつ者。大韓民国、中華人民共和国、モンゴル、台湾、香港、マカオ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、マレー

シア、シンガポール、インドネシア、ミャンマー、ブータン、ネパール、インド、バングラデシュ、スリランカ、モルディブ、パキスタン、アフガニスタン、ロシア連邦、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、パプア・ニューギニア、太平洋上諸島・諸国(フィジー、

トンガなど)

- ③ 2019年4月に、日本の大学院に正規学生(研究生およびオーバードクターは含みません)として在籍している者、ただし次の年齢制限があります。※修士課程(博士前期課程): 1989年4月1日以降出生の者 ※博士課程(博士後期課程): 1984年4月1日以降出生の者 ④ 2019年4月以降、年額360,000円を超える他の奨学金/研究助成金を受けないもの ⑤ 日本語で研究計画等が説明できる者。(面接はすべて日本語で行います。)

- **給付金額** 月額18万円 (他に国内学会出席旅費等を支給)
- **給付期間** 2年以内
- **採用人数** 15名程度
- **応募方法** 主催者ホームページから募集要項等をダウンロードし、提出書類を全部そろえて、郵送で提出。詳細は主催者ホームページで確認
- **応募期間** 2018年9月1日(土)～9月28日(金) (郵送にて17時までに必着)
- **主催者** 公益財団法人 とうきゅう留学生奨学財団 ホームページ <http://www.tokyu-f.jp>

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2018年4月

正会員

- (2口)
林 均 横浜市
- (1口)
白石 勤 千葉市
藪下 勝 千葉市
鈴木 智 日立市
田川 明子 港区
濱田 修 松原市
飯沼 英郎 鎌倉市
高橋 作太郎 静岡市
泉 憲子 日野市
熊沢 敏一 松戸市
田中 利恵子 東村山市
奥山 義夫 町田市
大井 裕子 さいたま市
坂詰 貴司 船橋市
野口 明美 三鷹市

- 脇 英親 文京区
染谷 誠 越谷市
寺門 克郎 習志野市
大野 大平 北区
国士館大学 世田谷区
高道 俊彦 富山市
堤井 信力 横浜市
菊地 絵里奈 葛飾区
馬杉 栄一 札幌市
愛知淑徳大学国際交流センター 長久手市
堀口 元生 神戸市

ご寄附

- 松浦 秀嗣 国分寺市
田中 利恵子 東村山市
奥山 義夫 町田市
吉原 エツ子 始良市
中田 有智子 国分寺市

2018年5月

特別会員

- (1口)
染谷 公久 坂東市

正会員

- (2口)
柳瀬 修三 バンコク
- (1口)
横田 雅弘 千代田区
松本 誠一 文京区
柏原 きみ 北区
竹嶋 栄子 松戸市
東京都太田記念館 杉並区
岩尾 明 日田市
千野 克子 墨田区
木村 博/劉 彩品 川崎市
三代 純平 小平市
村田 忠禧 川崎市

ご寄附

- 酒井 杏郎 渋谷区

皆様の暖かい御支援に
感謝申し上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名称：公益財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 白石勝己

設立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協会の、ABK留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（十税）でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

訃告

当協会前常務理事・萩野（工藤）正司氏が7月2日早朝、療養先でお亡くなりになりました。享年75歳。東京大学時代、学友に誘われ新星学寮を訪れ思いがけず入寮することになり、それ以来、留学生の在日中の様々な問題に遭遇し、また新星学寮の主宰者で当財団創設者である穂積五一氏の思想的影響を受け、大学の専門の道には進まず当財団に入職。その後、人材育成の場として様々な留学生寮を立ち上げ、長きに亘り日本人学生、留学生に影響を与えてきました。昨年までご家族と離れ、新星学寮に住まれ、近年は病を押して寮生の指導に当たられてきました。また、老朽化した木造の学寮の建替えを主導してこれ、昨年建替えを決議した後、寮を離れられ、完成をその目で見ることなく急逝されました。関係者の皆様へのお知らせが遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。同時に、故人のご冥福を心からお祈りし、ここに謹んでご報告申し上げます。なお、後日有志による偲び会を開催する予定です。

2018年7月 公益財団法人アジア学生文化協会

後記

1995年に当財団理事長を前任の田井重治氏から引き継ぎ、本年（2018年）までの23年間という長きに亘り当財団を牽引してこられた小本曾友理事長が退任され、6月の臨時理事会で新たに当財団職員・白石勝己事務局長が理事長に就任いたしましたので、周知の為、本号に就任のご挨拶を掲載いたします。

南アジアの労働事情について話されたILO勤務の川上剛氏は、東京医科歯科大学在学中に知り合ったABK在館のマレーシアの留学生の実家に夏休み1カ月お世話になっている。氏はその後ABK在館生となり、各国の留学生とも親交を結ぶが、こうした若い頃のアジア理解、体験がその後、ILOでの地道で貴重な仕事に繋がっていると認識を新たにした。以前はタイに駐在し南アジアを除くアジア全域をカバーし、その後スイスのILO本部に移り、今回はおそらく最後の勤めとなる地に南アジアを希望したとのこと。現在、インド・デリーに駐在。（F）

（お詫びと訂正）

本誌前号（2018年4-5月号/第532号）に下記の誤りがありました。
ここに楨んでお詫びを申し上げ、下記の通り訂正をいたします。

P1（目次）上から6行目（誤）小野朋子さん →（正）小野朋江さん
P32（MEMBERS）中央の段（誤）2018年1月 →（正）2018年3月

アジアの友 2018年6-7月号

2018年7月20日発行（通刊第533号）

年間購読（送料共）3,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 白石勝己
編集 アジアの友編集部
発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2-12-13（☎113-8642）
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599
振替口座：00150-0-56754 E-mail：tomo@abk.or.jp
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。



学校法人 ABK 学館

ABK学館日本語学校

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12

電話番号 +81-3-6912-0756

FAX +81-3-6912-0757

URL <http://abk.ac.jp>

E-mail info@abk.ac.jp



ABK COLLEGE

2013年4月に完成した新校舎

新築3階建校舎。最新の耐震設計です。

- 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校（英語名称：ABK COLLEGE）は1957年に設立された公益財団法人アジア学生文化協会が寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年4月に開校しました。当校には姉妹校のABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会）もあり各種協力を行います。



授業風景イメージ



寮の一例



ABK日本語コース

ABK COLLEGE

ABK COLLEGE (学校法人ABK学館ABK学館日本語学校)			
東京都認可日本語課程(大学院・専門学校・試験・文化体験等)			
	4月入学 1年コース	10月入学 1年半コース	4月入学 2年コース
授業時間	860時間	1,290時間	1,720時間
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円		
授業料 (施設・教材費含む)	620,000円	930,000円	1,240,000円
姉妹校 ABK日本語コース(公益財団法人アジア学生文化協会)			
文部科学省指定大学進学準備教育課程			
	4月入学 1年コース	10月入学 1.5年コース	
授業時間	1,086時間	1,586時間	
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円(大学進学日本語課程) 95,000円(大学進学準備課程)		
授業料 (施設・教材費含む)	720,000円	1,080,000円	
所在地 〒113-8545 東京都文京区本駒込2-12-12			
電話 ☎+81-3-3946-2171 FAX ☎+81-3946-7589			
E-mail info@abk.or.jp			

